

徳島市内の商業施設と定期市「徳島びっくり日曜日」との店舗種構成の比較

いちば研究会	正会員	○濱上隆道	徳島大学	正会員	上月康則
徳島大学	正会員	松重摩耶	いちば研究会	非会員	林哲生
			徳島大学	正会員	湯浅恭史

1. はじめに

都市近郊に大型商業施設が設置されるようになり、市街地にある商店街の衰退が問題になって久しい¹⁾。例えば、徳島市では、駅前から500mの距離にあって、以前は多くの人に親しまれていた東新町商店街がすっかりと「シャッター通り」²⁾になっており、1983年に徳島駅前に開業した「徳島そごう」も2020年に閉店した。こうした中であっても、定期市の「徳島びっくり日曜日」は現在も毎日曜日に開催され、活況を呈している。こうした定期市について観光資源の観点から論じた研究は多く、中村(2016)³⁾は生活市と観光資源を併せ持った高知街路市の流通システムに関する研究を行っている。本報では、びっくり日曜日や来場者の特質を把握することを目的に、変遷を整理し、店舗構成などについて他の徳島市内の主な商業施設と比較考察を行った。

2. 調査方法

2023年1月に、びっくり日曜市の主宰者にヒアリングを行い、市場の変遷を把握した。また2023年2月には、出店している店舗と市内商業施設の種類構成を調べた他、Google Mapに寄せられたコメント(2023年2月末現在)を抽出し、それらを他の商業施設などと比較した。他に、著者が1月22日から『雑談しませんか?』というコミュニティスペースを市場内に毎週設け、来客者に来場意図などについて調査を行った。

3. 調査結果

3.1 「徳島びっくり日曜日」の概要と変遷

本市場は1997年6月に代表の今井幹祐氏や玉井武二氏らの手によって徳島駅から直線距離で約3kmの位置にある繊維団地内で初めて開設された。開設以来、行政の支援を受けることなく、主体的に毎日曜日に市場を開いてきた(図-1)。出店希望者は1日につき出店料2,500円を支払い運営組織から承認を得て、登録すれば出店できる仕組みとなっている。「現在の登録店舗数は3,300」(玉井氏)であるが、実際の出店数は、開設当初の269店舗から現在は170店舗と減少傾向にある(表-1)。

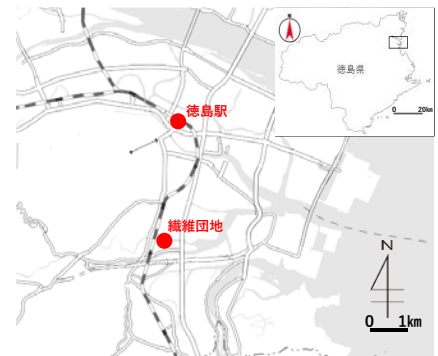


図-1 徳島びっくり日曜市が開設される繊維団地の場所

3.2 出店店舗の種類

出店店舗が扱う品物の内容は、野菜、果物、海産物、盆栽、山野草、骨董品、リサイクル品、医療関係用品、雑貨などバラエティに富んでいた。徳島市内の4つの商業施設と店舗構成を比較すると、びっくり日曜日では食品、次に靴、雑貨などを扱う店舗が多く、月1回の定期市の「徳島マルシェ」とよく似た構成となっていた(表-2)。しかし「イオンモール徳島」とは、店舗数や徳島駅からの距離もほぼ同等であるが、店舗の種構成は大きく異なっていた。他に、徳島駅から最も近い場所にある「東新町商店街」はいわゆる“シャッター通り”となっており、店舗数は最も少なく、靴、雑貨や貴金属を扱う店が最も多かった。

表-1 出店件数と平均出店数の変遷

年	出店件数	開催週数	平均出店数
開設当初	14,000	52	269
2018	11,000	52	212
2019	10,600	52	204
2020	9,300	⁵⁾ 49	190
2021	9,500	52	183
2022	9,000	52	173

表-2 徳島市内の主な商業施設との比較

	徳島びっくり日曜日	徳島マルシェ	イオンモール徳島	東新町商店街
開設年	1997年	2010年	2017年	1585年
開店頻度	毎週日曜日	毎月末日曜日	毎日	毎日
開設形態	店舗・露店との融合型	露店	鉄骨造地上6階大型店	商店街
徳島駅からの距離	2.9km	500m	2.5km	500m
出店数	142	66	142	26
店舗構成	1. 食品(青果・鮮魚・加工食品)：51%	1. 食品(青果・鮮魚・加工食品)：89%	1. 靴・雑貨・貴金属等：27%	1. 靴・雑貨・貴金属等：31%
	2. 靴・雑貨・貴金属等：16%	2. 靴・雑貨・貴金属等：11%	2. 飲食(イトイン)：18%	2. 衣類・布等：23%
	3. 衣類・布等：15%	-	3. 衣類・布等：23%	3. 飲食(イトイン)：19%

3.3 Google Map への口コミの比較

同程度の店舗数で賑わいを見せているびっくり日曜日とイオンモールに対する Google Map での評価や口コミの内容を比較した(表-3)。その結果、口コミ数はびっくり日曜日ではイオンの約半数であったが、評価ポイントは3.7と同程度であった。またコメントにはポジティブな内容が多い点も共通してい

表-3 Google Map での口コミと評価

		徳島びっくり日曜日	イオンモール徳島
口コミ数		500	963
平均点数 (5点満点)		3.7	3.8
ポジティブ	使用語句	野菜, 安い, 新鮮 魚, 総菜, 肉, 最高 売る, キャンペーン, 楽しい お祭り, 屋台, 車	映画, 食事, シネマ 豊富, 揃える, 食品 レストラン, フード, 充実 駐車, 立体, 広い
ネガティブ	使用語句	車, 混む	混む, 土日 店員, 対応, 悪い 疲れる, 歩く

たが、表現方法には違いがみられた。例えば、びっくり日曜日に対しては「安い」「楽しい」「お祭りのよう」と感情を含んだ表現がなされていた。イオンモールでは、コメントの大半は「豊富」「広い」「充実」といった物理的な表現であった。一方、ネガティブなコメントでは、びっくり日曜日では、「駐車場が混む」という物理的表な現であったが、イオンモールでは「疲れる」、定員の対応が「悪い」といった感情的な表現も散見された。

3.4 びっくり日曜市の来客者へのヒアリング

『雑談しませんか?』スペースに来店された方の内、39名からアンケートを実施することができた。この内、初めて来場された方は18名で年齢は20～40歳代、「今後も来場したい」という意思表示がなされていた。また月に複数回来場するような常連者は14名おり、年齢は50～80歳代と比較的高齢であった。その内の12名の来場目的は「買いたいものがあった」「人に会いに来た」であったことから常連者の多くは地域の生活者であると推察される。アンケートの自由記述欄を見ると、初来場者、常連者に共通して「人と話すのが好き」「普段だと知り合えないような方とつながる」などコミュニケーションや新しい出会いにびっくり日曜市の良さを感じていた。両者で異なっていた点は、初来場者は、全員が「賑わっている」「楽しい」「都会では見られない」「また来たい」というポジティブな意見であった一方で、常連者の多くは「昔より人が減少している」「前は活気があった」「業者が少なくなったのが残念」「品物が悪くなった」とネガティブなコメントをしていた。

4. おわりに

びっくり日曜日と来場者の特徴を見いだすために店舗の種構成、来場者へのヒアリング、Google Map への口コミなどの調査分析を行った。その結果、店舗種構成や口コミの内容はイオンモールと異なっていた。また常連者の多くは地域の食材を買い求めに来る地域の生活者で、昔に比べると出店数、来場者が減少していることに寂しさを感じていた。その一方で、初来場者は地産の食材や出店者から聞く地域のストーリーなどに魅力を感じていたことから、コミュニケーションのできるスペースを増やすと、新たな活況の拠点が創出されるという期待を感じることができた。

謝辞 本研究の調査にご協力いただいた今井幹祐様、玉井武二様、米田一行様、清瀬由香様、また情報収集と分析にご協力頂いた宮内尚輝様、本原将吾様に謝意を申し上げます。

参考文献 1) 黒川健人：新しい時代の商店街の再生に向けて、香川大学経済政策研究、第7号、pp.25-44、2011年3月、2) 徳島新聞：新町地区人通り10年で半減 そごう撤退後に3割減、郊外に店舗流出も、2022/05/24 18:00 (最終閲覧日：2023.3.1)、3) 中村努『高知県高知市における街路市の展開と流通システムの空間特性』E-journal GEO 2016年2月